

2025年度(後期)

作業療法学科 1 学年  
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 情報科学

担当講師名 : 藤田 和久

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : なし

参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 数量的分析法の意義と手順を身に付け、科学的実証研究を実践できるようになる。

【講義概要】

数量的研究における解析の手法について学ぶ。

ヒゲッソに基づく意思決定の重要性を理解する。

回数	項 目	内 容
1	数量的研究とは	統計学とは、作業療法士が数量的研究手法を身に付ける意味とは
2	基礎統計 (1)	データとは、尺度の種類、代表値と散布度
3	基礎統計 (2)	分散と標準偏差の求め方
4	推測統計 (1)	正規分布とその性質、母集団と標本
5	推測統計 (2)	平均値の区間推定、標本数の求め方
6	統計的検定 (1)	仮説検定の仕組み、2つの過誤
7	統計的検定 (2)	平均値の検定
8	統計的検定 (3)	分散値の検定
9	統計的検定 (4)	分散分析
10	統計的検定 (5)	度数・比率の検定
11	相関と回帰 (1)	検定結果の解釈と報告
12	相関と回帰 (2)	相関、単回帰分析
13	より高度な分析 (1)	重回帰分析
14	より高度な分析 (2)	因子分析の考え方と手法
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義と計算演習を中心に行う。計算演習では電卓を使用する。

## 2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : OT研究法 I

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法研究法 (医歯薬出版)・医療統計解析 参考書 : なし  
(出版社) : 使いこなし実践ガイド (羊土社) (出版社)

教育目標 【到達目標】 : 作業療法研究で用いられる各種統計解析の手法を、テーマに応じて

選択できるようになる。

## 【講義概要】

ヒトを直接の対象とした研究におけるパラメトリック・ノンパラメトリックの各解析手法を学習する。

本講義では卒前教育として量的研究のみを扱う。

回数	項目	内容
1	研究の準備	研究疑問から発表までの研究課程を学ぶ。
2	研究の準備	仮説検証の基礎や手順について学ぶ。
3	研究と倫理	量的研究の枠組みを学び、エビデンスレベル・信頼性・妥当性を理解する。
4	研究と倫理	量的研究の枠組みを学び、エビデンスレベル・信頼性・妥当性を理解する。
5	解析手法	ヘルシンキ宣言の成り立ちと内容を学び、研究倫理の重要性を理解する。
6	解析手法	自身のPCにRをインストールする。
7	演習	R言語の基礎と基本操作に慣れる。
8	演習	調査票や質問紙の作成方法を学ぶ。
9	解析手法各論	2群間・3群間の差の検定の手法を学ぶ。
10	解析手法各論	相関分析・因子分析・主成分分析の原理と解釈について学ぶ。
11	解析手法各論	$\chi$ 二乗検定の手法を学ぶ。
12	解析手法各論	パラメトリック/ノンパラメトリックとサンプルサイズについて学ぶ。
13	作業療法研究の実例	作業療法の臨床研究の実例を教材として量的研究を読み解き、
14	作業療法研究の実例	現在の論文のパラダイムを学ぶ。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験・学術修士数学専攻）

windows10以降のパソコンが必要。

用意できない場合は早めに指導教員に連絡すること。スマートフォンでは演習不可。

## 2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 運動学Ⅱ 担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 解剖学における骨・関節・筋の理解を深め、筋の収縮によって生じる作用を理解する

### 【講義概要】

体表からの触知によって筋活動の情報を得る技術を習得する。

各関節の動筋・拮抗筋の走行を学習し、関節運動と筋収縮の関連を理解する。

回数	項 目	内 容
1	骨・関節の基礎	上肢の骨・関節と各関節運動について
2		下肢の骨・関節と各関節運動について
3	上肢筋の走行と関節運動	上肢帯の骨・関節や筋の作用について
4		肩関節の骨・関節や筋の作用について
5		肘関節・前腕の骨・関節や筋の作用について
6		手関節の骨・関節や筋の作用について
7		手指の骨・関節や筋の作用について
8		上肢まとめ
9	下肢筋の走行と関節運動	股関節の骨・関節や筋の作用について
10		膝関節の骨・関節や筋の作用について
11		足関節・足趾の骨・関節や筋の作用について
12		下肢まとめ
13	体幹筋の走行	体幹の骨・関節や筋の作用について
14		顔面・頭部の筋の作用について
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 運動学実習 担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 : 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 参考書 : (出版社)

教育目標 【 到達目標 】 : 運動学 I ・ II で学んだ内容を基に、姿勢と動作の分析を学び・理解する

【講義概要】

姿勢観察・動作分析を行い、ヒトの運動を分析する方法の基礎を学ぶ。特殊な機器を使用せず、自身の目による観察を主としているため、汎用性の高い方法である。

回数	項 目	内 容
1	基礎学習	運動器として見る骨・関節・筋の関係①
2		運動器として見る骨・関節・筋の関係①
3		関節運動における重力と筋張力①
4		関節運動における重力と筋張力②
5		身体の平衡①
6		身体の平衡②
7		姿勢、姿勢分析について
8	姿勢観察実習	姿勢観察(端坐位)
9		姿勢観察(立位)
10	姿勢分析実習	姿勢分析(端坐位)①
11		姿勢分析(端坐位)②
12		姿勢分析(端坐位)③
13		グループレポート作成
14	デモンストレーション	端坐位解説
15	動作分析実習	動作分析概要、歩行
16		動作分析(立ち上がり)①
17		動作分析(立ち上がり)②
18		動作分析(立ち上がり)③
19		レポート作成
20	デモンストレーション	立ち上がり解説

## 2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 病理学

担当講師名 : 江夏 一彰

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 参考書 :  
(出版社) : (医学書院) (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 臨床的に必要な病理学の知識を身につける。

### 【講義概要】

疾患による病変または組織の経時的な変化について、マクロ（症状）とミクロ（原因）の両側から学ぶ。

講義において病因論・退行性病変・進行性病変・免疫・炎症・臨床薬理を扱う。

回数	項 目	内 容
1	病理学の概要、病因論	病理学の定義と、疾患の様々な原因（病因）について理解する。
2	退行性病変, 進行性病変	細胞や組織の退行性、進行性的変化について理解する。
3	代謝障害	様々な栄養素の代謝異常により引き起こされる病態について理解する。
4	循環障害	体液循環のシステムと、局所ならびに全身性の循環障害について理解する。
5	免疫	免疫の概念と、免疫反応に伴う傷害と疾患について理解する。
6	炎症	炎症の原因、種類、経時的変化について理解する。
7	感染症	感染症の成立、感染経路、日和見感染症について理解する。
8	腫瘍①	腫瘍の定義、命名法と分類について理解する。
9	腫瘍②	腫瘍の肉眼と組織形態、異型度、分化度、進展形式について理解する。
10	腫瘍③	腫瘍発生の原因と発がんのメカニズムについて理解する。
11	老化	老化の概念と原因、老化に伴う生理学的変化について理解する。
12	先天異常、奇形	遺伝子異常による疾患と遺伝性疾患、染色体異常、奇形について理解する。
13	臨床薬理①	薬物の作用機序、投与方法、体内動態について理解する。
14	臨床薬理②	対象疾患に関連した薬物療法と、副作用や有害事象について理解する。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義中心の授業を行う。

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 精神医学 担当講師名 : 花宮 豊

単 位 : 3 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 (出版社) : はじめての精神医学 (中山書店) 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 精神医学の概要と様々な精神疾患の理解

【講義概要】 自主的な学習および講義を通じ、精神疾患を理解する。

精神疾患を持つ人の困難を理解することを試みる

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	なぜ、精神医学を学ぶのか
2	総論	作業療法士と精神医学
3	〃	精神医学の歴史
4	〃	日本における精神医療の変遷
5	〃	精神障害の成因と分類 (外因、内因、心因)
6	〃	精神機能とその障害 (精神症状)
7	疾患各論	気分障害 (うつ病、双極症) ①
8	〃	〃 ②
9	〃	統合失調症①
10	〃	〃 ②
11	〃	不安症 (パニック症、社交不安症)
12	〃	強迫性障害、摂食障害、パーソナリティ障害
13	〃	心的外傷 (PTSD、ASD)
14	〃	解離症
15	〃	認知症①
16	〃	認知症②
17	〃	発達障害 (自閉症スペクトラム症)
18	〃	〃 (注意欠陥・多動症)
19	〃	依存症①
20	〃	〃 ②

## 2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : OT評価学1(身体障害評価学1)

担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学  
(出版社) : 第3版 (医学書院)参考書 :  
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 各種検査・測定等の実技を中心に身体障害評価の基礎を学習し、これを修得する。

## 【講義概要】

主に関節可動域の測定方法(検査)の実技を学ぶ。

被検査者への応対やオリエンテーションの方法も重要な学習内容である。

回数	項目	内容
1	評価学の基礎	身体障害評価について、その意義と目的を学習する。
2	バイタルサインの測定	各種バイタルサイン(血圧、脈拍等)の測定を中心に学習する。
3	形態計測	四肢長・周径を中心に形態計測方法を学習する。
4	関節可動域の測定	概要
5	関節可動域の測定	肩甲帯
6	関節可動域の測定	肩関節、肘関節、前腕
7	関節可動域の測定	肩関節、肘関節、前腕
8	関節可動域の測定	手関節、母指、第2～5指
9	関節可動域の測定	手関節、母指、第2～5指
10	関節可動域の測定	股関節、膝関節、足関節
11	関節可動域の測定	股関節、膝関節、足関節
12	関節可動域の測定	体幹
13	関節可動域の測定	全体統括
14	関節可動域の測定	全体統括
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/身体障害領域の実務経験)

学生同士が検査者と被検査者になって実習を行う形式の授業である。動きやすい服装で臨むこと。

## 2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : OT治療学5 (ADL)

担当講師名 : 岩崎 元晴

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 作業療法学全書 第11巻 改定第3版 日常生活活動(協同医学出版社)  
 動作分析 臨床活用講座 パフォーマンスに基づく臨床推論の実践(ジカビョウ社)

参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 日常生活活動(ADL)の概念、作業療法士の役割、評価、介入方法など基本的な事柄を学習し、疾病の種類にかかわらず作業

療法という立場でADLに介入する基本的な概念、知識、技術について理解することで、各疾患への介入方法へつなげる。従来、身辺処理のみに限定されていたADLを

日本作業療法士協会の考え方を取り入れ、拡大したADLを学習していく。なお常に最新の作業療法の理論・実践を伝えるために教育計画を変更することがある。

### 【講義概要】

ADLの項目ごとに動作を学習した後に、各疾患に特有のADL障害を学ぶ。

同時に、ICF・FIM・COPM・AMPSなどの評価分類の学習も進める。

回数	項 目	内 容
1	ADLの定義と作業療法の役割	日常生活活動の概念と範囲。作業療法の理念と役割。
2	ADL種目別理解(1)	食事・排泄・起居・移動活動
3	ADL種目別理解(2)	更衣・整容・入浴・コミュニケーション活動
4	ADL種目別理解(3)	健康管理・家庭生活・社会活動
5	ICFとは何か	ICF (国際生活機能分類)
6	何のためにADLを評価するのか	評価の過程・目標と方法
7	実際に行うにあたって	活動遂行に関わる諸問題の検討
8	ADL評価としてのFIM	FIM (機能的自立度評価法)
9	パーキンソン病	パーキンソン病とADL
10	片麻痺	片麻痺者の特徴とADL
11	福祉用具	福祉用具と代償的アプローチについて
12	高齢者	在宅高齢者
13	精神障害者・高次脳機能障害者	精神障害者のADLと高次脳機能障害者のADL
14	COPM・AMPS	OTとしてのADLの見方
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義を中心とした授業を行う。

## 2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : OT治療学9(精神科OT学I)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法学 コールト・マスター・テキスト (出版社) : 精神障害作業療法学 (メジカルビュー社) 参考書 : (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 精神科医療、精神科作業療法について「臨床の知識」として学びつつ、

対象者に対応する際の視点として役立てるようにする。

## 【講義概要】

精神科領域の作業療法の臨床では、治療と評価が同時に行われることも多い。

ここでは各種理論を紹介するが、一連の流れを学習しやすいように評価と治療を合わせて扱う。

回数	項目	内容
1	概要	精神科作業療法とは
2	精神科医療状況概論	精神科医療を取り巻く状況、歴史
3	精神科領域での基礎理論	自己理解、精神分析学
4	"	来談者中心療法、生活臨床、発達理論
5	"	集団理論
6	"	行動、学習理論、行動療法
7	"	認知行動療法
8	"	ストレス理論
9	"	自律訓練法と弛緩訓練法、感覚統合
10	"	情報処理理論
11	"	薬物療法
12	"	予後と再発
13	"	病識、家族研究、障害論
14	"	就労
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】